

平成26年度 第1回埼玉県立図書館協議会会議録

◇ 日 時 平成26年7月24日(木) 午後2時～午後4時

◇ 会 場 埼玉会館 3C会議室

◇ 出席者 (1) 出席委員

大野好司委員	木村直美委員	土屋かおり委員
久保田洋子委員	金子貞雄委員	江田明子委員
小笠原清春委員	関口聡美委員	柴原早苗委員
高橋 博委員		

(2) 図書館職員

【県立浦和図書館】

岡館長 陣内副館長 民本副館長 荻原主席司書主幹
高橋司書主幹 峰岸司書主幹 細田担当課長 加茂専門員

【県立熊谷図書館】

乙骨館長 榎本副館長 伊藤教育主幹

【県立久喜図書館】

渡邊館長 根岸副館長 銭場教育主幹

◇ 会議次第

1 開 会

[浦和図書館 細田担当課長]

2 委嘱状交付 県立浦和図書館 岡館長

3 あいさつ 県立浦和図書館 岡館長

4 委員紹介

5 会長・副会長選出

委員の互選により、会長に小笠原委員、副会長に若松委員を選出した。

6 会長あいさつ

7 職員紹介

8 平成25年度第3回会議録報告

全出席委員、異議なく承認された。

9 会議録署名委員の指名

会長が、高橋委員と木村委員を指名し、了承された。

10 会議の公開について議決

傍聴希望者が2名いることの報告。会長の指示で傍聴者を入室させる。

11 議 事

(1) 平成25年度事業実施状況について及び(2) 平成26年度予算及び事業について

[浦和図書館 陣内副館長]

平成26年度要覧で平成25年度事業実施状況と平成26年度予算及び事業について、説明。

【質疑】

- 会 長／皆さんが資料を見ていただいているところで、私から質問をさせていただく。
要覧P.5に郵送サービスがあるが、実績はいかがか。
- 事務局／郵送サービスの実績としては、現在までに11件、冊数として50冊の実績があった。数は多くはないが、こういうことを実施しているということで、実績はこの程度である。
- 会 長／上里町で、「図書館活用講座」を実施されているようだが、その概要を説明していただきたい。図書館が未設置の地域で実施したのか。
- 事務局／現在図書館を設置していない町が4つある。上里町の近くだと、神川町には図書館がないが、隣町の上里町立図書館が、なかなかいいサービスを行っており、その上里町立図書館を会場に、まず、県立図書館の資料の展示を行ったほか北部地域の学校支援のブースも設けた。それと写真家の漆原さんをお招きして「図書館の活用について」の講演も行ったところである。数多くの方々にご参加いただき、盛況に終わった。
- 委 員／要覧P.19の利用状況の中の5相互貸借（図書館等）の、三つめに「貸出（その他）」とあり、件数も2321件とあるが、「その他」の具体的な中身を教えてください。
- 事務局／この「その他」というのは、公立図書館以外のものを指しており、高校図書館や県外の図書館、さいたま文学館や男女共同参画センターなど、その他類縁機関という図書室をもっている8機関への相互貸借をしている。
- 委 員／高校の図書館も相互貸借の関係でいろいろお世話になっているかと思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。
- 委 員／P.18の中ほどに「(4)資料複写」という項目があるが、浦和図書館が他館に比べてすごく多いという理由（どういう資料を複写しているのか）をお聞きしたい。あと、一番下の「(3)団体利用」の中に、「調べ学習文庫」というのがあるが、利用タイトル数「12」とは、どういった内容で、どのようなところに貸出をしているのか教えてください。
- 事務局／浦和図書館の複写枚数が多いということに関しては、はっきりとした理由はわからないが、資料群によるものだと思う。浦和図書館は、社会科学と地域・行政資料を持っており、地域・行政資料については、貸出をしないので、外に持ち出すことができず、必要なところをコピーするという形でサービスを行っている。その外、社会科学関係の雑誌で貸出をしないものもあるため、やはり複写で対応している。そういった資料群を持っている浦和図書館の複写枚数が多くなっているのではないかと思っている。
- 「調べ学習文庫」というのは、例えば、ボランティアや高齢者に対しての理解、国際理解など、テーマを決めて何冊か同じ本をそろえて主に小学校に貸出し、

グループでの学習ができるように設置したものである。これができた当初は公立図書館のない町村の主に小学校に団体貸出をしていたが、一昨年度から、図書館を設置している市町村へも貸出を開始した。県立図書館のHPでも御案内をしているので、使いたい学校から直接、熊谷図書館に申し込みをしていただき、分野ごとに貸出をするというものである。今、資料がないためこの学校へ貸したかという詳細を申し上げられないが、そういった形での貸出となっている。

会 長／平成 26 年度の予算関係について、私から質問させていただく。

図書館の情報化推進事業の関係で、確か、クラウドを使ってという形に代わったと思うが、それによって、総予算は減っているのかということと、いわゆる資料のデジタル化という予算は、どのあたりに入ってくるのか、そのことについて教えていただきたい。

事務局／情報化推進事業であるが、生涯学習文化財課で要求をしている。前年度予算が 61,459 千円から今年度が、37,718 千円というように、大幅に減となっている。クラウドに代わっただけということではなくて、ほかの要素もある。クラウドは、これまでの各システムごとにそれぞれのサーバの機械を導入していたやり方ではなく、優れた機能のサーバ機械を 1 台用意して、それを複数のシステムで共同利用するというものである。そのため、今まで浦和図書館で借りて使っていたサーバ機のお金が単純に要らなくなったということである。若干メンテナンスで、特殊なシステムとなるため、違った形での増額はあるが、相対的には減ってきている。昨年度新しいシステムを入れ替えたので、システムの移し替えにかなりの費用がかかったが、今年度は、維持の経費だけになったので、大幅に減額になったという状況である。

デジタル化については、要覧の P.7 を御覧いただきたい。「(2) 地域・行政資料サービス」の中で、3 段落目の「貴重書 58 タイトル、絵図 11 タイトル、明治期から昭和期の図書 60 タイトル、雑誌 21 タイトルをデジタル画像化し、県立図書館ウェブサイト内のデジタルライブラリーにて公開している」とあるが、デジタル化事業に関しては、主に国でやっていた緊急雇用事業を活用してデジタル化したもので、デジタル化に関する予算化は今のところ出来ていない。地域・行政資料の中には、デジタル化しなければいけない資料があるので、それを予算化して事業を進めていくことが今の課題となっている。

委 員／先程、神川町の図書館の話があったが、県北の町立の図書館がないところには、公民館図書室があると思う。実際に公民館図書室が他の図書館に代わるような形でやっているのかお聞きしたい。

公立図書館のある市町村の公民館図書室の中には、名ばかりというか、とりあえずあるというだけで、体をなしていないところもあるように思う。

個人的に調べてみたのだが、公民館図書室の方々にも会い、話をお聞きし、生の評価もいただいた。その中で、「県立図書館の対応がすごくよい」ということを聞いた。どういうところがいいのか聞いたところ、熊谷図書館から出ている巡回

車（協力・連絡車）も定期的に来ており、今、話題の本などをお願いすると、何週間後になるとか、きちんと細部まで対応してくれるということであった。県立図書館の対応のよさを聞くことができたので、私としてもうれしくなり、御報告させていただいた。

県北の公民館図書室が、どの程度、きちっと図書館に近い形になっているかどうか、それをお聞きしたい。

事務局／現在、県内で図書館未設置の町としては、県北でいうと先程の話の神川町、それから長瀬町、皆野町、東部地区の松伏町が未設置となっている。東秩父村は、図書館設置条例があるので、未設置とは言っていないが、図書館の活動としてはあまり活発ではなく、昨年度は、土日しか開いていなかったと思う。それに比べれば、図書館未設置といいながら、松伏町は、相互貸借の数や利用者の数からもよくやっているという印象だ。その他、神川町だと、県立図書館からの配本所というのを設置しており、県立図書館で購入した図書を配本所に配本して、地域住民の方々に使っていただくサービスを行っている。大人向けの配本所があるのが、神川町と皆野町である。長瀬町に関しては、小学校が2校あり、その2校へ配本をしている。年1回、公民館図書室等実務担当者会議を開催しており、担当者の生の声を聞く機会がある。やはり専任の担当者がいないということが、厳しい状況かと思う。実際に公民館図書室で勤務されている方は、正規の職員ではなく、非常勤職員やパート、バイトさんという方も多いようだ。県立図書館としては、未設置の町において、何とか設置に向けバックアップしていきたいところではあるが、町の予算の状況もあるのでなかなか設置というところまでいかない現状である。

会 長／確認だが、協力車は図書館が未設置の町の図書室にも回っているのか。

事務局／回っている。

委 員／先程の説明で、入館者数と貸出冊数は落ちているという説明であったが、入館者の詳しい年代別等内訳がわかるのかということと、若い人がたぶん減ってきているとは思いますが、例えば、学校と連携を取って、授業の一環として、一度県立図書館へ足を運ぶような機会を設けていくと、生徒さんたちにもいいのではないかと思うが、そのあたりいかがか。

事務局／図書館としては、年代別といった統計はとっていないが、浦和図書館を見ると、割合としては高齢の方が多くみられる。ただ、時期によっては、高校生がかなり多く来館し、席も満席になってしまうこともあるし、こども室は、親御さんが幼児と一緒に来てくれることも多くある。感覚的にだが、浦和図書館では高齢者の方が多い感じである。

学校との連携だが、基本的に学校に（団体に）貸出をするのは、先程お話しした「調べ学習文庫」だけで、あとは、個人的な利用という形でお願いしている。小学校に関しては、夏休みだとか、調べ学習などで、先生から市町村の図書館を通じて20～30冊といった利用もある。また、児童図書は久喜図書館が中心に所蔵しているので、直接、久喜図書館に出向いて、たくさん本を借りていかれ

るということはある。そういったこともすべて、統計には個人の貸出として反映しているため、小学校にどのくらい県立図書館が貢献しているかという具体的な数値はわからない。また、小学生については、図書館見学の受け入れをしている。ただし、身近に使ってもらうのは、市町村の図書館がまず第1番と思っており、市町村立図書館を県立図書館がバックアップできればいいと思っている。直接来てもらうのは大歓迎であるので、これからも来ていただけるように努力していきたい。

浦和図書館では、こども室で夏休みの自由研究に役立つ本等の紹介をしている。そういった形での取組はしている。

会 長／県立久喜図書館の工事というのは、ある程度具体的にいつかというのはわかるか。

事務局／今、県の設備課、管財課と協議をしている最中で、明日もまた集まって協議をする予定である。8月いっぱい最終的に決まる予定だが、具体的に今、この場で言えるほど決まってははいない。ただし、今年の秋ごろに入札をし、来年になって工事がはじまる予定である。今のところ、3月から5月あたりを休館と考えている。耐震工事だが、予算的に一番大きいのが空調である。天井をはがし、空調工事をやってまた天井を貼るという大規模な工事になる。4月頃が空調を使わない時期であるため、その頃を工事のメインにして、休館にしようかという状況だが、まだ、これから詰めていくことになる。

会 長／具体的なことがわかったら、また情報提供をよろしくお願ひしたい。

(3) 図書館サービス評価指標について（報告）

〔浦和図書館 高橋司書主幹〕

資料1に基づき、重点目標と今年度のサービス評価指標について説明。

【質疑】

会 長／指標にあたって、昨年度から協議会の委員の中から4人の方に、小委員会に出でいただいた。本日いらしている委員さんのお二人から、御意見、感想などお聞かせいただきたい。

委 員／2回ほど、小委員会を開催し、細かいところまでいろいろ議論をした。この資料を見なくてもわかるくらい議論をしたわけだが、それなりに反映はされたと思う。その時の議事録は、皆さんにお配りされていないので、全体的な話でどんなことがあったかお話しする。まず、指標が12個と多いので、本当にやりたいことはこのうちどれなのか。もう少し、今年度はこれとこれをやるという話があってもいいのではないか。外に、来館者数増加のための方策として何かないかということだが、一般的には、人を呼び込むために何をするかというと、基本的には魅力のあるものを展示するか、魅力のあるイベントを開催するか、ということが行われている。それを図書館にも応用する。今やっているイベントは、本当に皆さんの興味があるものかどうか、たくさん人が呼べるもの

かどうかということである。人によっては魅力があるものかもしれないが、そうでない人もいるので、多くの方に魅力のあるイベントを開催するというのも一つの案ではないかと思う。それから、今回12個、指標という形で選んでいるが、こういうやり方ではない県もある。例えば、今年度にやりたいことを何か目標に設定する。目標は毎年変わってもいいわけである。埼玉県の場合は、同じ指標で毎年どう指標が変わってきたかというのを経年変化でみているが、そうではなく、やりたいことを今年度の目標にするといった単純なやり方もあるのではないかという意見もあった。

外に、小委員会の中での話ではないが、協力貸出件数、県立図書館からの貸出件数がどんどん減ってきている状況で、これは死活問題ではないかという話があり、貸出件数の減少をどうしたらいいかと担当でも悩まれているという話があった。また、ウェブサイトのアクセス件数も減っているため、何かいいアイデアはないかとの話もあった。

委員／一県民として、個人的に感じたことを2点ほど申し上げる。

1～2カ月前だったかと思うが、ネットと新聞で話題になっていたが、国際基督教大学で「一度も借りられなかった本」という特集をし、図書館の目立つ所に展示をしたと、非常に話題になっていた。図書館というのは、公共のものであるので、人が来て使って初めて生きてくると思う。ICUのような感じで、何か独自性のある県立図書館ならではのものを打ち出して、県民に愛されるということが求められる時代に来ているのではないかと思う。それが、1点目である。

2点目としては、県民の方、利用者の方がいらしたときに、また来たいと思ってもらえるような図書館である必要があると思う。実は今日ここへ来る時迷ってしまい、浦和図書館に行って、会議室の場所を伺った。受付の図書館の方は、非常に丁寧に應對してくださって、すごく印象がよかったが、できればもう少し笑顔の方がいいのではないかと思う。県立図書館というと人によっては敷居が高いイメージもあるかと思うので、ウェルカムな感じがあった方が好ましいと思う。例えば、1度来て、あのスタッフさんがいるからまた来ようとか、あの司書さんにレファレンスを頼んだ時すごく良くしてもらったからまた来ようとか、リピーターを増やしていく工夫が必要なのではないかと思う。あくまでも、一利用者、一県民としての印象を申し上げた。

会長／来館者を増やすとか、いろいろなアイデアを協議会で出し合っていたきたいと思う。指標の関係で絞り込みの話やもっと具体的にという話があったが、事務局の方で何か考えがあるのか。

事務局／今、ちょうど図書館がいろいろ過渡期に入っているところである。付け加えて指標自体が策定されてからしばらく経過しているという事情もある。

さらに、先程委員からお話をいただいたが、指標が多すぎて分かりづらいのではという意見もいただいているところである。このような状況があるので、指標の見直しについては、検討を進めていきたいとは考えている。

今年度は、まずはどのようなスケジュールで、見直しを進めるのかというあたりから、協議を進めていきたいと思っている。

例えば、今後 2 館体制、その先にはもしかしたら 1 館体制になるかもしれないなど、これから激動の時代を迎えるところであるので、どのタイミングで、指標を変えていくのか非常に難しいとは思いますが、その辺も含めて、まずはスケジュールをきちんと作る場所から取り組んでいきたいと思っている。

会 長／今年度の指標については、説明のあった形で進めるということで、御了解をいただきたいと思う。来年度以降の話も含め、御意見、御質問等あったらお受けしたいと思う。

委 員／平成 25 年度の実績と平成 26 年度の目標を逐一御説明いただいたが、前年度の実績が下がれば、それよりちょっと上の数値を目標にする。前年度の実績が上がれば、それよりちょっと上の数値を目標にするということが繰り返されている。例えば、24 年度より 25 年度、23 年度より 24 年度が下がった時に、25 年度は、23 年度より低いけれども 24 年度よりは高い目標にする。23 年度より 24 年度が上がれば、24 年度より 25 年度がちょっと高い目標になっている。感想を言うようだが、一体目標というものをどういうところにおいて、数値を決めるのかということが、非常に疑問だ。実績にスライドさせるような形で、それに努力目標というような構成で新たな目標がたてられていると思うが、一体全体この指標というのは何のためにやるのか、どこを目標としているのか、毎年毎年実績を参考にして変えるというのはおかしいのではないかと今の説明を聞いて思ったので、単純な疑問として申し上げた。

会 長／数値目標の立て方ですね。単純といえば単純なやり方かもしれないが、いかがか。

事務局／委員の言われたとおり、毎年の実績を勘案して当年度の目標を決めるというやり方を取っており、なかなか、長期的なサービスの目標が定まらないということも重々承知している。やり方として 3 年なり、5 年なりの長期の目標を立てるというやり方もある。それも含めて指標の中身と併せて検討していきたいと思っている。

委 員／県民 1 人 1 人が県立図書館ということを信頼して、そこに何かアクセスすれば自分の進展につながるということを大事にしていけばいいのではないかと思う。そのためには、ネットの件数がどうのということではなく、それはいろいろな人が調べるために使うものなので、社会の状況によっても変わってくると思うが、来館者数とか、人が県立図書館と関係を結ぶということを大事にしていこうことが大切だと思う。私自身も浦和にずっと住んでいるが、学校として特に県立図書館に行ったという記憶がないような気がする。でも、一度関係性を持てば、その時にすごくいい、丁寧な対応をしてもらったという話を今もお聞きした。県立図書館に来ればこんな対応をしてもらえて、学びにもすごく役に立つという経験を県民の一人ひとりが実感できるようなチャンスというのを作ってあげるとするのは、数値的にすぐに目標値に結びつかなくても、基盤としては

大事なのではないかと思う。そういったことを積み上げていくと、県民の能力的なことも発展していき、信頼関係もすごく強くなって、そうすると必然的に来る方も多くなってくのではないかと思うが、いかがか。

事務局／御意見ありがとうございます。私どもも、愛される図書館を目指しているので、来ていただいた方には、またもう一度来たいと思っていただけるような図書館にしたいと思っている。人と人とのつながりを大切にしたいと思っているので、これからも努力していきたい。

委員／小中高校の時代に、一度は県立図書館と関係性を持つというようなことを企画されるのはいいのではないかと思うが、いかがか。また、入館者の数は調べていても、年代層までは具体的に調べてはいないということだったが、多分調べることは可能だと思うし、年代層に合わせた、その人がどういうニーズで県立図書館に来ているか、借りることが目的の人もいれば、図書館で過ごすことを大事にする人もいると思うので、そのあたりのニーズを計っていくと、今後統合していったときにどこの場所に作るかということも含めて、本当に必要な場所に作っていくことができ、そろえていく図書も変わっていくのではないかと思うが、いかがか。

事務局／年代層に関しては、先程も申し上げたように統計としてはとっていない。指標の利用者満足度に関するアンケートで年代を聞いており、季節によって、若い方が多くなったりすることがあるが、だいたいそのアンケートで年代層が推定できるかと思っている。3館とも少し高齢の方が多くなっているとは思っている。なかなか、個人情報の関係もあり、細かなところはアンケートでも聞けないが、どのように利用されているかということも含めて、分析をしていけたらと思っている。

委員／単純な質問だが、浦和図書館は、どこでカウントしているのか。熊谷図書館はどちらでカウントしているのか。

事務局／2階の入り口のところにカウントする機器が置いてあり、入って出て1人とカウントしている。熊谷も、玄関のところでカウントしている。

委員／年代層は、わからないということではいいか。わかるのは人の数だけということか。

事務局／はい、そのとおりである。

委員／借りるときには、借りた人がどういう年代でどういうものを借りたということではわかるのではないか。

事務局／図書館としては、そういった個人の情報を一切持たないという前提で、県民にサービスをしている。もちろん、借りているときには、どの方が借りているということはわかるが、本を返していただいた後や、図書館内で御利用いただくことに関しては、一切、どこから来てどのような本をといることを、あえて触れないというか、そういったことをしないという前提で、図書館を利用させていただいているので、委員の言われる形で年齢層を取るのには難しいと思っている。

委員／参考までに伺いたいのだが、さいたま市の図書館の年間の来館者数というのは

どれくらいあるのか。県立と同じくらいなのか、さいたま市は、もっと少ないのか。逆に多いのか。わかったら教えていただきたい。

事務局／さいたま市は、レベルが違い図書館の数も非常に多くあるので、合計の数は、710万3898人が平成25年度の入館者数の実績である。ちなみに、貸出冊数も申し上げる。882万5831冊でさいたま市内全域の図書館で貸出がされている。

委員／その数は、全国の政令指定都市でも多い方か。

事務局／比較まではしていないが、かなりなレベルの人数だと思う。

会長／私から、補足させていただく。絶対数からいくと人口の多いところにはどうしても負ける。大阪市だとか、横浜市は多分多いと思う。貸し出した冊数を人口で割ったものについては、多分ずっとさいたま市が1位だと思う。2位が確か静岡市だったと思う。

事務局／事務局からも補足させていただく。収集している図書にもよると思われる。私も県立3館で分野別に図書の収集をやっているのですが、児童書については、久喜に新しいのはあるが、浦和は新しいものが少ない。専門書が多く、市町村立で買えるようなベストセラー本などは、収集方針で県立図書館では購入していない。やはり、たくさん来てもらうためには、人気のある本がたくさんあればということもあるが、県立としての収集方針で市町村立では買えない専門書などを集めているので、来館者数に即結びつかない本もあるかもしれない。県立として収集しなければいけないけれども、それを何十人も、何百人もの人が借りたいということではないということがあるかと思う。

委員／意見ということになるかと思うが、結論としては、この県立図書館としての方針を維持していただければいいのではないかと思う。先程自己紹介でも申し上げたが、私も一昨年、放送大学の大学院で勉強をしており、いろいろネットで条件検索をしたところ、浦和図書館には資料があるのが分かり助かった。図書館に行って、コピーさせてもらい、資料をみると関連するものがある、するとそれも探してコピーしてということで、大変助かったということがあった。やはり県立図書館は市町村立図書館と違った方針があるので、それを維持していただければいいのではないかと思う。そういう点では、数値目標というのがあまり数値ばかりにとらわれてすぎてしまうとよくない。P.4のところでも高価な図書の購入が中心となって、購入冊数が減少したという説明があったが、それで問題はないし、むしろこういうものを強めていった方がより一層ニーズには応えられるのではないかと思う。生涯学習で取り組みをされている方も、これからの高齢化社会では増えていくと思うし、あるいは、ビジネスパーソンの方たちにも応えるという点では、ニーズにも応える方向になっていくと思われる。ある程度特化した部分に置いての目標設定や対応としての特色化をだしていければ、より一層県立図書館の存在意義が高まっていくのではないと思う。高等学校の例でいうと、高等学校はすべて図書館を持っている。司書もいるので、学校の図書館の利用についてのガイダンスを4月当初にやって利用を促している。今の子供たちの好むマンガだとかあるいは、若者向けの本をたくさん購入

したりもしているが、それでも実際は利用が少なく、どうしたらいいのか苦労している実態がある。ただ、先程話のあった連携ということがあるので、いろいろ必要なことがあれば、県立図書館から取り寄せることができると、県立図書館の存在自体はある程度紹介できるような形はとっていると思う。なかなか、実際に県立図書館へ行くように指示することは難しいが、県立図書館の存在や連携をしたりして活用ができるということまでは、指導していきたいと思う。

委員／小委員会の方ではお話しできなかったが、HPのアクセスについて、細かな話になってしまいが、アクセス件数をアップするにはどうしたらよいかということがあった。公共の図書館でやるべきかどうかという話はあると思うが、有料広告はいいのではないかと思う。例えば、バナー広告、あるいは検索サイトのグーグルやヤフーで検索して、上の方や下の方にでてくる有料の検索結果、お金は結構かかるが、アクセスアップという意味ではかなりアップする。ちなみに、公共かどうかわからないが、法テラスというところは、堂々と有料でお金をかけて出している。そういう意味で、公共機関だから出してはだめということはないと思う。その他は、もし既に行っているということならよいが、市町村の図書館から埼玉県立図書館へのリンクである。すべての市町村からリンクされているのかということである。全国の県立図書館から埼玉県立図書館へのリンクをやっていいのかわからないが、そういったリンクである。そういうこともアクセスを増加させるという意味では、効果はあるのではないかと思う。

会長／こちらについては、また検討いただいて、なんらかのお答えをいただければと思う。そろそろ時間も迫ってきたので、私からも一言申し上げる。皆さんの御意見の感じだと、指標をもう少し絞り込んだ方がよいということが一つの方向性として出された。おそらく12ある指標が全部フラットに同じような形になっている。来館者数であるとか、直接の貸出冊数というようなものは、県立図書館の役割を考えた場合、参考数値ではあっても、評価の優先度が高いものとは言えないのではないか。その辺はもう少し絞り込んだ方がいいのかもしれない。また、サービス評価を使って、もっと、プレゼンテーションに使えるような形で、県立図書館の売り込みができないだろうか。例えば、国立国会図書館に提供しているレファレンス事例の数が日本一であるといったことは、もっと積極的に表に出して行って、これだけ役に立っているということの効果的に売り込んでもらいたい。さらに、非来館型のサービスであるとか、市町村図書館を通して協力貸出によって県立図書館が役に立っているわけだから、その辺のトータルでの「役立ち度」というか、そういったものが必要かもしれない。それから、経年変化での比較はあるが、全国の都道府県の中でどういう位置に埼玉県の図書館はあるのか、そうしたことが分かっても面白いのではないか。来年の小委員会なりでもう少し絞り込んだ形で、協議していただければと思う。それぞれの指標の中のいろいろなアイデアを委員の方から出していただいたが、この辺のことについては、次回以降になってしまうと思うが是非、皆さんの方からもだしていただけるようお願いをしたいと思う。

(4) その他

ア 「国立国会図書館デジタル化資料提供サービス」について
パンフレットを使用し、サービスを開始した旨の説明。

[浦和図書館 峰岸司書主幹]

イ 資料展「にっぽん歴史街道 資料でたどる埼玉の道」について
パンフレットを使用し、図書館と博物館での連携展示について説明。

[浦和図書館 陣内副館長]

議事終了

第2回は10月下旬に熊谷で開催する予定。

傍聴者退室

11 閉会

[浦和図書館 細田担当課長]

会議録署名

会 長 _____ 印

委 員 _____ 印

委 員 _____ 印